

「ツレ」の文化

山口 英一

「あんな、名古屋のこと、そーんなにけなしたりしたらかんよー、名古屋にも、えーとこあるでねー、こんどみせたるがねー」昨年夏以来馴染みになった食事処「末喜」のおばちゃんにセノン誌三九〇号に載せた小生の文をみせたところ、こう言われてしまった。書いた本人としては冗談のつもりだったので、それほど気にしていなかったが、冒頭で「名古屋は……何でも微妙に中途半端……」と書いたあの文については、支社内でも「名古屋バッシングだ」と言う者がいたりして、少々反省しているところであった。そこで、「次回は、名古屋を誉めることを書くからね」と言っては弁解してきた約束を果たすべく筆を執った次第である。しかし、正直なところ何を誉めたものか？「尾張名古屋は城でもつ」の、名古屋城あるいは金の鯨？あるいは、ついに世界第二位の自動車メーカーとなったトヨタだろうか？ 残念ながら今ひとつピンとこないし、そんなことを書いても面白くない。むしろトヨタを生んだ底流にある当地の文化を考察してみれば、何かが見えてくるのではないか。

この地は戦国時代、群雄が興亡を重ね、戦乱が打ち続いて土地に住む農民たちは田畑を荒らされ、家を焼かれて安住のいとまのない暮らしがづづいた。そして、ついに（こちらの言葉で）

もたんもんで（耐えられないので）、豊臣秀吉に代表されるように、農民の中にも土地を捨て、家を捨てて侍となり、戦乱の旅に運命を託する者もあった。

こうしたなかで、尾張・三河の人々のなかに、しだいに他力を頼ることなく自力をもって生きぬくしたたかな根性が、戦国の世を生きぬく知恵として、暮らしのなかに根づいていった、というのが、この地域の人々の底流にあるものようである。

「図説・愛知県の歴史」（河出書房新社）の記述に、「現在、一人当りの貯金額が他県に比して多く、また、パチンコ発祥と日本一のパチンコ台数が示すような、生活を破綻させない程度のくらしのリアリズムこそ、歴史のなかで鍛えぬかれた冷厳な人生感覚による県民の自立意識の強靱性を物語っているといえよう。

愛知県は、江戸と京坂という二大都市の中間に位置し、東海道が海に沿って走り、旅人の往来も多く、情報の伝達は比較的



早いにもかかわらず、旅人と情報も通過するだけで、ここに滞留し何らかの文化的政治的役割を果たしたという例は、少ない」とあった。調べてみると日本一ではないが、パチンコの台数は多く、発祥の地だけあってパチンコの出荷台数は日本一で全国の半分近くのシェアを誇っている。人口当たりの自己破産件数も少ない方ではあった。ただ、自己破産件数をみると、西日本は軒並みその比率が高く、特に九州各県はすべて愛知県の数以上の比率になっているのは興味深かった。これは思うに酒の飲み方に表れているような気がする。一般に九州人はパァーッと飲んでパァーッと盛り上がる飲み方をしますが、商売などでも、パァーッと思い切つてやつてしまうが、失敗したら自己破産してゼロからやり直せばいいぐらいに考えているのではなからうか。ちよつと脱線してしまつたが、九州のことはさておき、確かに、こちらの人々はある種の合理性を持った生き方をしていくようである。ブランド品は好きだが、上手に中古品を買って揃える。あるいは普段節約しているが、いざというときには、それこそ他県の人が驚くような派手なお金の使い方をする。例の嫁入り道具しかり、また、高額で有名な仏壇というのもある。庶民レベルでみるとしたたかできえあるようにみえる。

実は、明治維新の際、三河の小藩ばかりでなく六十二万石の尾張藩も、尊攘派・佐幕派両方の形勢を見くらべて容易に態度を決せず、大勢の帰趨を追って有利な方向に「こう」としていた。その優柔不断ぶりが椰揄された当時の「手まり歌」が残っているらしいが、最後には尊攘派有利とみて、藩内の佐幕派処分

（青松葉事件）という事件を作り上げて薩長側になびいた。これは戦国時代のある時は斯波領だったのが次は今川領だったり、あるいは織田領だったり、目まぐるしく領地争いをしていく中で、旗幟を鮮明にするのを避ける気風がはぐくまれた結果かもしれない。名古屋では江戸時代末期における苦い経験が、その後の「官物物の払い下げには一切応じない」など「自力発展」を旨とした名古屋商法に繋がっていた。ともかく、政治的にはそのようなことから、民間では、とにかくお上というものを当てにしていない。

たとえば、トヨタは戦後まもなくの時期、「傾斜生産方式」という政策のあおりを受けて産業資金の借入が思うようにならなかったことなどを苦い経験として「外部からの借入は極力抑える」方針を貫き、ついに昭和五十二年六月期末の貸借対照表から「借入金」の勘定科目をなくしてしまつた。また、ブラザー工業では昭和十年代前半、資金繰りに窮して銀行の門を叩いたとき、ミシン国産化の重要性を説くその言葉に耳をかさず、ついに首をタテにふらなかつた銀行当事者に対する痛憤から当時の社長が世上に無類の借金嫌い、銀行嫌いとして定評されるに至つたという話はよく知られているところである。

名古屋人気質については、よく「名古屋人は堅実で保守的である、だからバブルにも踊らず、そして、その後遺症に苦しむことも少なく、堅調を維持している」あるいは「東京、大阪を横目でにらみ、三番目でいいという追従型の三男坊気質、意思決定のスピードが遅く、なかなか決断しないおっとり尾張大納

は否めず、サラリーマンが名古屋勤務になり、そこで一人前になるのにかかるの苦心が必要とは、よく聞く話である。これに関して、名古屋出身の作家・清水義範氏の「蕎麦ときしめん」に次のような一節がある。「自分たちだけで強力な地域コミュニティケーションを作り上げていて、そこへ他所者を決して交えないのである」名古屋に転居した人はみんなが言いますね。「なかなか、仲間に入れて貰えない。でも、いったん壁を越えようととても心地よい」と。また、同氏の「やっとかめ大名古屋語辞典」には、「名古屋弁で、『ツレ』という言葉がある。語源的にはもちろん『連れ』からきているらしいが、配偶者を言っているのではなく、『友達』『親しい知りあい』のことを意味することばである。そして、この『ツレ』という言葉は、名古屋人の不思議な人間関係を如実に示すのである。名古屋人は、名古屋出身のどんな有名な人も、ツレなのである。つまり、名古屋人は皆兄弟、すべて知り合いであり、従って名古屋人はすべて『ツレ』である」と。なるほど、いわば小さな村で村人全員が親戚といった感覚で名古屋では友達にやんわりと寄りかかる「ツレ文化」を形作っているようである。「どんな有名な人も、ツレなのである」とは、いくらなんでも、誇張であると思うが、名古屋のことを「大きな田舎」と呼ぶのはこのあたりからきているのは確かであろうで、名古屋の人たちに「ツレ」だと見られるか、いつまでも他所者と見られるかで、この地での生活はまるっきり変わってしまう。名古屋に転勤になって、いつまでも

「ツレ」になれなかった人は、やはり名古屋は閉鎖的で、営業の難しいところだと感じて帰るのである。どうやら、小生は「ツレ」だと認められつつあるようで、先日、ついに例の店の常連の人に誘われて畑作業をするまでになった。まさに「大いなる田舎」を体感したわけである。(笑)

農業のあと、北海道から届いたという鹿の肉でバーベキューやら牡蠣鍋やらで乾杯となり、実に楽しいひと時だった。どうもこの歓待ぶりは今後も定期的に参加するように、もう逃げられないよというこの含みがあったらしい。という訳で今後も少なくとも月に一回程度は参加することになりそうである。ま、ダイエツトにもなり、却って好都合かも知れない。

最後に、今後名古屋に転勤予定の人のために、早く「ツレ」として認められる秘訣をお教えしよう。それはポイントとなる名古屋弁を覚えて使ってみることである。前出の清水氏に拠れば、名古屋弁の代表的なものは「〜とる」「〜もんで」「〜かん



江南市松竹農園にて



片山津温泉にて

言的な気質、あるいは内弁慶、あるいは名古屋モノロー主義」などと言われ、「モノづくりにかけては日本一の実力を持つなど、この地域の潜在能力には相当のものがあると思われるが、潜在能力を顕在化できない、秘めた実力を思う存分發揮できない」というのが、中部地域の最大の弱点と言われてきた。しかし、愛

知万博、中部国際空港開港に向けた最近の動きは、これらのマインナス評価の修正を迫っているようでもある。

さて、冒頭に書いた、末喜のおぼちゃんの「名古屋にもえーとこあるでねー」というのは、名古屋でいいところを教えてくださいというのではなかった。「あんたも、ゴルフいこま」と親しい仲間たちと石川県の片山津温泉にゴルフに行こうというお誘いであった。もちろん、喜んで参加したが、メンバーのうちの三人は埼玉、神奈川、大阪から駆けつけてくるという話であった。いずれも以前に単身赴任で名古屋勤務だった頃、この店の常連になって今でも交流のある人たちだということ。なるほど、次第に分ってきた。「名古屋にもえーとこあるでねー」

は「名古屋人もえーとこあるでねー」という意味だったようだ。いや、もしかしたら、金沢あたりには街に尾張町はじめ名古屋を起源とする地名があるように、そもそも尾張出身の前田利家が作った街である。名古屋の人々の中には「あのあたりは尾張の飛び地だ」ぐらいの意識があるのかも知れない。

愛知県は知多と渥美の二つの半島、美濃・信濃の山脈につながる広い山地、さらには平野部の都市と農村、これらの半島・山地・平地の三つの文化が混然となって独特な天地を構成している。方言も尾張弁・名古屋弁・知多弁・三河弁さらに三河でも山地で使用される言葉は岡崎や豊橋あたりとは異なり、多様な言語が入りまじっているなどともいわれるが、周りの人間に聞く限りでは少なくとも若い世代にとっては尾張弁と三河弁の区別もつかないといった状況になりつつあるようで、さびしいかぎりである。ところで、突然だが、こちらでは、質屋のことを文字表記の上でも「ひちや」と言うらしい。純粹な江戸っ子は「ひ」と「し」の区別が付かないというのは有名な話だが、こちらに来て、この看板を見て、やはり江戸には尾張・三河の血が流れているのだなと得心したしだいであった。

ところで、名古屋は、大きな田舎と称されるようにやや保守性が強く、東京・大阪などとは異なった独自の生活文化を創造している。この独自の生活文化が、ときに排他と受けとられやすいこと



江戸弁のルーツか？

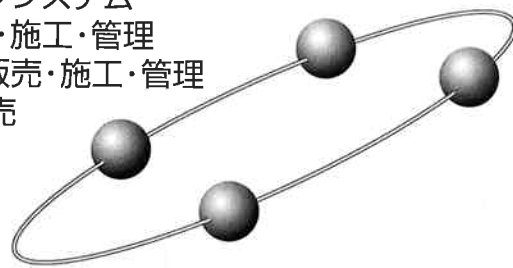
「うししょう」だそうである。ひところタモリが言っていた「ミヤーマイヤー」いう言葉は必ずしも特徴的に耳に残る感じはない。この四つの言葉を使って例文を作ると「今日は、雪が降つとるもんで、道がつんどってかん」「そうでしょう（注、しょうに強いアクセント）、わたしもえらい遅れてまったがねー」といった具合である。これを標準語で言うと、「今日は雪が降っているものだから、道が渋滞していて参っちゃうよ」「そうでしょう、わたしもかなり遅れてしまったわ」となる。「うししょう」は標準語と同じではないかと思われるかもしれないが、名古屋では女性がよく相手の同意を促す言葉として、強いアクセントで「うししょう」「うししょう」と畳み掛けてくる。清水氏の解説によれば、共通語でも同意を求めるときに、「うししょう」と言う。そこで「……だがね」「……だぎゃあ」というような名古屋語を女性が使っては少しきいた感じなので、名古屋の主婦が、東京人と同じように、「うししょう」を使おうとして導入したつもりなのであるが、力がこもるあまりアクセントを変えてしまったということなのである。

あまり名古屋弁を面白おかしく書いてみると、それこそ部下から「いつまでも、たーけたこと書いてとってかん」という眼で見られそうなので、この辺で止めることとする。ただ、読者のみなさん、愛知万博開幕まであと一年、開幕時に万博会場以外でも楽しく過ごす為、今から名古屋弁を少しずつ覚えてみてはいかがでしょうか。

(名古屋支社 管理部長)

コンピュータネットワークシステム
システム設計・施工・管理
コンピュータ・周辺機器販売
情報通信システム
企業内情報ネットワークシステム
デジタル交換機販売・施工・管理
ネットワーク機器販売・施工・管理
OA事務機器販売

TDD



情報通信システムのことなら
東洋電信電話工業株式会社

〒108-0014 東京都港区芝5-15-5
TEL: 03-3451-5121 FAX: 03-3451-5127

社長就任記六七(三四期)

社長 林 力夫

セノン誌(二〇〇二年十二月/三八〇号)の主な記事

- ・アメリカの警備業務の現地見分(一)
- ・全国支社長会議開催(十月二十四日)
- ・管理職スキルアップ研修
- ・ヒルトン東京ベイ・クリスマス・トレイン出発進行

《ホットライン》

- ・発煙早期発見ならびに初期消火適切の功……………東京中央支社
- ・自衛消防操法大会成績優秀の功……………千葉支社
- ・自衛消防活動審査会成績優秀の功……………東京中央支社
- ・屋内消火栓操法競技大会成績優秀の功……………関空支社